

お彼岸とは、かの岸。  
対立や憎しみ、悩みや苦しみ、そんな世界  
でない、清らかに澄み透った和やかな悟りの  
世界を願う日。それがお彼岸という日の意味  
です。

そんな清浄なさとりの世界にどのようにし  
て渡ることができるのか。  
お釈迦様は六つの実践をおすすめになりました。  
「布施(ふせ)」「持戒(じかい)」と  
「忍辱(にんにく)」「精進(しょうじん)」  
「と」「禪定(ぜんじょう)」「智慧(ちえ)」  
「布施(ふせ)」と「持戒(じかい)」と  
「六度、六バラミツ」と言います。

布施は人への施し。ボランティアです。  
持戒は自らを戒めながら暮らしなさい。  
忍辱とは、ぐつと辛抱。腹を立てるな。  
精進とはい加減な手抜きをせず努力せよ。  
禪定はうろちょろせず一点に集中しなさい、  
智慧とは、ほんとうに真実を見ているのか。

しかしこれらは単なる徳目であってはなら  
ない。実際に自分で実践してみる事だ。  
悟りへの道・仏への道・仏道とは、自分で  
実際に歩いて実践するのでなくては意味がな  
い。

たとえば最初の布施。ボランティアとい  
うことになり組んで見て、いったい何が見えて  
来るのか。  
到底ボランティア布施などということので  
きない私が見えて来る。  
人のため世のためといいながら、いつでも  
来るのか。

お彼岸とは、かの岸。  
対立や憎しみ、悩みや苦しみ、そんな世界  
でない、清らかに澄み透った和やかな悟りの  
世界を願う日。それがお彼岸という日の意味  
です。

林寺  
勝林寺

## お彼岸

悪いことをしてはいけない。  
善い行いをしよう。  
そう励むなかで

実はそのようにはできない我利我利亡者の  
わたしに気づいていく営み  
それが全てのほとけさまの教えである。

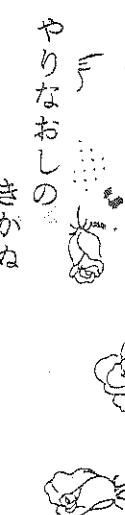
## 「七仏通戒偈」

彼岸への道とは、こうなのだああのだと  
知つて覚えて悟る学問。知識ではない。  
生活のなかで実践を通じて悟りなさいとお

釈迦さまはおっしゃるのです。  
我利我利亡者でしかないわたしが、実は大  
きなおかげさまによつて願われ生かされてい  
たご恩の真っ只中の私であつたと知り、大い

なるいのちのなかに生まれ変わらせていただ  
く。これが往生淨土・彼の岸、彼岸への道で  
あると教えてくださいとのことです。

みなおすことが  
できる  
(金子大栄)



## 四月(卯月)のこよみ

五・六月の行事

五・六月の行事	五月二十日は、淨土真宗のご開山 親鸞さまのお誕生を慶び、その導き によって開かれた「お念佛のなかで みな同朋」の世界を恵まれたこのし あわせを感謝しあう法会(ほうえ)。
五・六月の行事	十一日 薩山房雄十三回忌法事 坂本光隆氏宅法事
五・六月の行事	一二日 田中達夫氏納骨式 宮嶋哲也氏宅納骨式
五・六月の行事	一三日 金久繁一氏宅法事 連研運営委員会
五・六月の行事	一四日 田中達夫氏納骨式
五・六月の行事	一五日 中央仏教学院通信制同窓会来寺
五・六月の行事	一六日 前住孫小野里結婚式
五・六月の行事	一七日 前住渡米

江戸時代の昔、村々から人々を募つて京都  
のご本山に奉仕に行く習慣がありました。明  
治維新以後、これがいつたん途絶えていたも  
のを、第二次世界大戦敗戦後の昭和二十三年  
蓮如上人ご遠忌を機に復興し、あらためて組  
単位の念佛奉仕団が再開されました。前前住  
職・坊守は、とくに出石組念佛奉仕団の立ち  
上げに全力貢献しました。この出石組念佛奉  
仕団の歴史は日本全国一位を誇るものです。  
この先人の築いた伝統を大切に、今年も振  
るって参加してください。

私がため自分のためといいながら、いつでも  
人のため世のためといいながら、いつでも  
来るのか。  
到底ボランティア布施などということので  
きない私が見えて来る。  
人のため世のためといいながら、いつでも  
来るのか。  
「この一年の間に亡くなつた方の遺骨をみん  
なでお供して大谷本廟に納骨しよう」とこの  
淨土へ」というあつい思いからでした。

勝林寺に仏壯・仏婦ができてから毎年、  
呼び声の中、親鸞さまともみぞ見ひとつのお  
淨土へ」というあつい思いからでした。

勝林寺に仏壯・仏婦ができてから毎年、  
呼び声の中、親鸞さまともみぞ見ひとつのお  
淨土へ」というあつい思いからでした。

## ☆出石組念佛奉仕団

六月四(土)・五(日)日

淨土真宗のご門徒は在所の墓はあまり重視  
せず、その遺骨・遺髪を京都の大谷本廟(親  
鸞さまの廟所)に納めました。「お念佛のお  
みなさん。趣旨」理解のうえご参加下さい。

ご遺族・親族はもちろん、仏壯・仏婦の会員  
のこととは京都方面の旅行となる予定です。  
旅行日程・参加費など、その要綱は追つて  
ご案内致します。

おばあちゃんの  
つぶやき

これは私のお姑さん、九十三歳になる母の教えです。

人殺しや強盗。自分の親まで殺人するなんて、太平洋戦争の前には、そんなもん噂にも聞いたことありませんでした。それがなんで!。まんだおほくなすおな十七・八のわか者が……。

そのうえなお悲しいのは、すぐに、それは学校のせいや教育のありようが違つてきましたからや。つまり先生の教育のありかたが間違つてゐるやと言われる。長年小学校・国民学校の訓導ということをしてきたわたしは、それ聞くだびに身を切られるつらさです。

そのうえ親の子育てのせいにされたりもします。

世の中の先生、誰ひとりとしてええかげんなことしてはる教師いるもんですかいな!お母ちゃんだけ、みんなパートに出て必死に子育てしてますがな。

それに鞭打つなんてお氣の毒です。

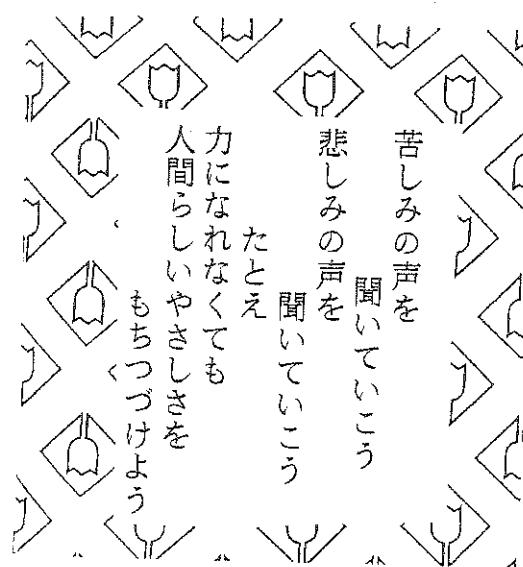
ほなら、どこがどう間違いなんでしょう。わたしも超えて自分の身の回りのことさえ不自由なのに、評論家さんみたいなこと言えるはずもないけれど、ただこの間、お寺さんで教えてもらつたことで思いあたることあります。

そのことは

「寒いねといえは  
寒いねと

答える暖かさ」

寒さに震えている子供を抱きかかえて一緒に



に寒さにふるえる。たしかにそんな母親も先生もいなくなりましたね」。

子供に対しても知識を教えてあげよう

生もいなくなりましたね」。

ことのためには教育をがんばり、子供に対してもよきママたろうと頑張る。

へとへとに疲れて、エエイどうにでもなれ。カラスの勝手でしょと、児童をほかし子育て放棄。

う

如来さまのおこころは「慈悲」といつて、「ともに呻く」と言うことなのでって。「わたしと一つになつて呻いてくださる」。

「大悲同感」とか「同体の慈悲」という、とばもあるそうです。

今時のことばでいえば

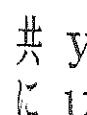
こどもに対しても教育してくださる先生はいっぱいいてくださいます。こどもの為に奮闘しているママもいっぱいいます

が、こどもと共に、こどもの身によりそつて大悲同感の先生がほしいですねー

実践家である先生のこのことばに出会ったときの感激はいま胸裏に焼き付いております。

「社会福祉」ということについて、また特にボランティアと言うことについても、すでにf o r y a t o の時代ではありません。w i t h でなければなりません。

もう五・六年も前のことです、たしか光華女子短期大学の若い先生から教えてもらったことがあります。

with you  
あなたと共に

行政や一般社会は、すでに町村を超えて市制へと広域化していきます。将来、道州制にまで行き着くかも知れません。その趨勢のなかで「人ととの温もり」が圧し消されてしまつては大変です。

人と人が向き合い手を携えあって生きる地域福祉が潰されてしまつては大変です。

今まで、社会的な差別状況のなかに追いやられていた子育て・老人・障害者が、ますます一般社会からそっぽを向かれ特に行政から見放されてしまうそんな危機的状況が目の前に迫つて来ているように思えるのです。

ここに来て、だれもが真剣に福祉といふとボランティアということについて考えてみなければならぬと痛感します。

誰もが、共に働き（共働）、そのなかで互いに学び（共学）あい、そして共に育つていく。そういう場面、そういう機会を、それを小地域ごとに構築して行くことが望まれます。障害者・老人を焦点に据えた

## W I T H Y U

障害者・老人を焦点に据えた

あなたと共に生きる福祉社会を、わたしの身近なところに持つことで、わたしの・あなたの人生のしあわせを期待することもできると思います。

W i t h (わたしもあなたとともに生き・共に育つ) なから自然になされる介護・支援こそがほんものではないかと思うのです。

そのことなしの介助支援は、こちらの見解を一方的に押し付ける極めて独善的な支援か、

または、「こんなにしてあげてるのに」なんて恩着せがましいお返しを強要するボラン

ティアになるのがオチです。  
なおまたそのうえ憎しみの感情にまで発展しかねません。恐ろしいことです。

